

植木センターだより

令和2年 第2号 (Vol. 140)



ネムノキ

日当たりのよい野原や河川の堤防などによく見かけるマメ科の落葉高木で、淡紅色の繊細な花糸が特有の雰囲気をかもし出します。

植木センターでは本館東側のほ場に植栽されており、6月中旬に花を咲かせますが、高木ですので見過ごしてしまいがちです。

目次

調査研究の現場から 「樹種の特性を活かした生垣づくり についての調査」	2
トピックス「植木相談あれこれ」	5
緑化木の主要害虫 No.25 (トサカフトメイガ)	7

－調査研究の現場から－

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和2年度は次の3課題に取り組んでいます。

- ・日照条件の違いによる耐陰性樹種の生育についての調査（H30～R2）
- ・緑化木の耐暑・耐乾対策についての調査（R1～3）
- ・樹種の特性を活かした生垣づくりについての調査（R2～4）

ここでは、今年度から新たに取り組んでいる「樹種の特性を活かした生垣づくりについての調査」の実施状況を紹介します。

樹種の特性を活かした生垣づくりについての調査 (令和2年度～4年度)

1 調査目的

生垣をつくる場合、その樹種や植栽環境によって、植栽後の生育や外観は大きく異なりますので、その環境や目的、好みに応じた樹種を選ぶ必要があります。

一般的に、生垣は、視線の遮蔽、侵入防止、境界の明示、寒風・騒音防止などを目的につくられることが多いですが、花や葉色、香りなどを楽しむ観賞対象としての効果も期待できます。

そこで、枝葉の密度が高く遮蔽性が高いことや、強度の刈込に耐えて萌芽しやすいなど、生垣に適すると思われる樹種を植栽して、生垣用樹としての特性を明らかにし、樹種選定の参考となる資料を作成するために調査を行っています。

また、調査後は、来場者に外観や維持管理方法などを見学し、生垣づくりの参考にしていただけるように、各樹種の生垣を見本展示する予定です。

2 調査内容

(1) 樹種の選定と目標樹高

生垣をつくる主な目的・効果により、次の①～③に区分して全体で11樹種を植栽し、樹種毎に目標とする樹高（かっこ内）を設定して育成管理を行っています。

- ① 主に遮蔽性や侵入防止の効果が期待できる樹種
イヌマキ（2.0m）、スカイロケット（2.0m）、キャラボク（1.0m）
- ② 花や香り、葉色の変化などを楽しめる樹種
アカバナトキワマンサク（2.0m）、キンモクセイ（2.0m）、レッドロビン（ベニカメ）（2.0m）、モッコウバラ（1.5m）、キンマサキ（1.0m）
- ③ おしゃれで印象的な外観が期待できる樹種
ナンテン（1.5m）、ドウダンツツジ（1.0m）、フィリフェラオーレア（0.4m）
※フィリフェラオーレアはスカイロケットの樹間に植栽

(2) 植栽方法

延長3mの区画を10区画設け、令和元年11月18日に上記樹種を植栽して生垣をつくり、必要に応じ支柱を設置しました。（写真参照）

調査地全景



(3) 調査内容

各樹種による生垣の特色を明らかにし、樹種選定や育成管理の参考となるように、苗木の購入等に要する経費を始め、植栽後の外観の推移など、次の事項について調査しています。

- ① コスト：苗木や資材等の購入に要する経費
- ② 遮蔽率：各樹種の生垣を定点撮影して、樹木等により背景が遮蔽される割合を算出
- ③ 外観の推移：生育状況、開花、葉色、樹勢、病害虫の発生状況等
- ④ 育成管理の難易度：植栽、育成管理に要する作業量
- ⑤ 生垣の評価：上記の各項目について各樹種の生垣を評価

3 調査の現状

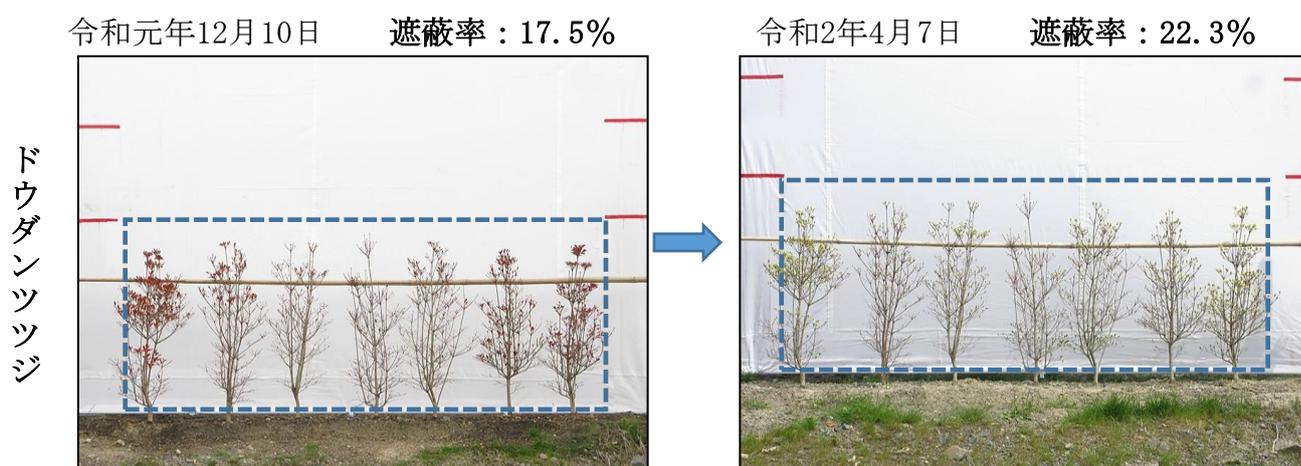
令和元年12月10日と令和2年4月7日における外観、遮蔽率の変化は下記のとおりです。

(5 樹種を掲載)

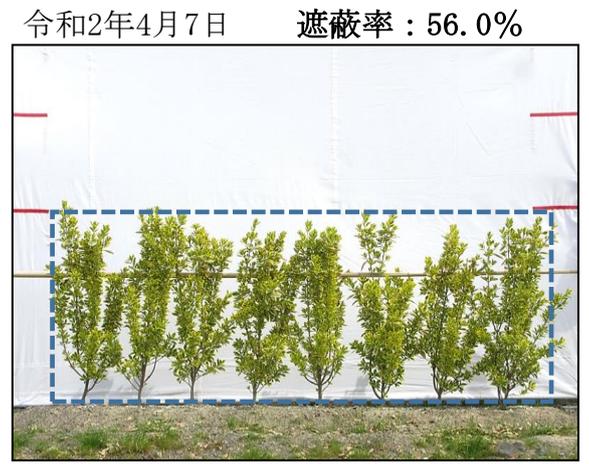
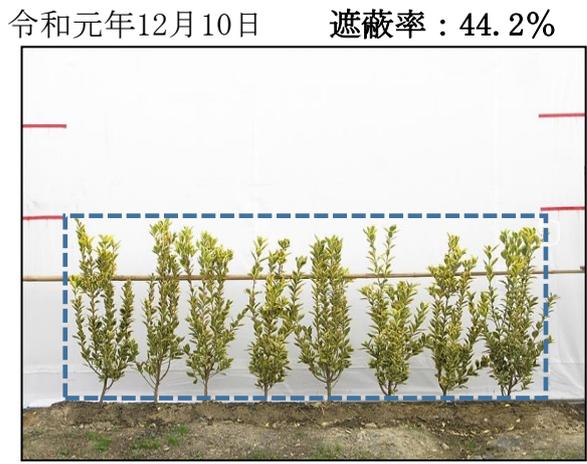
遮蔽率は、白布を背景にして撮影した写真から、樹種毎に設定した目標樹高の範囲をトリミングし、データ解析して算出したものです。

なお、白布の赤い横線は、地上高1.0m、1.5m、2.0mを示し、青い点線は遮蔽率の算出範囲を示しています。

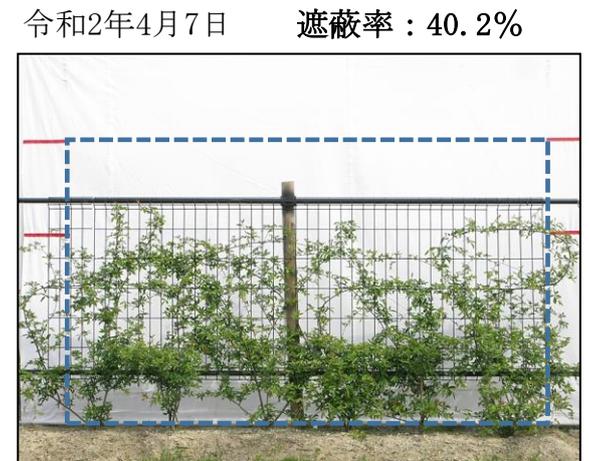
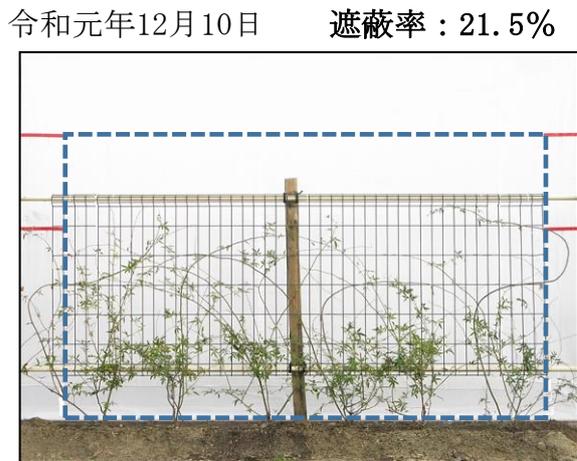
【外観と遮蔽率の変化】 ※5 樹種を抜粋して掲載



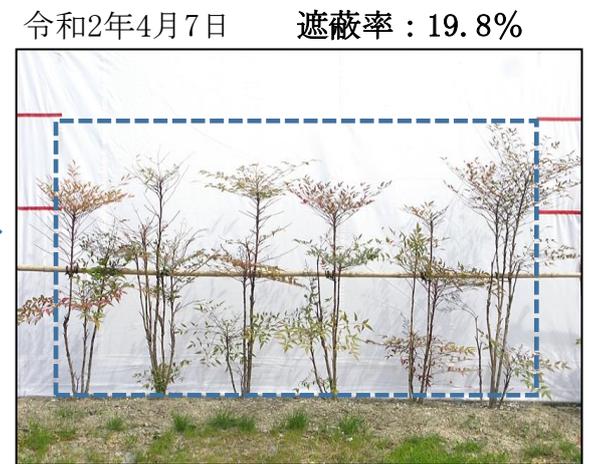
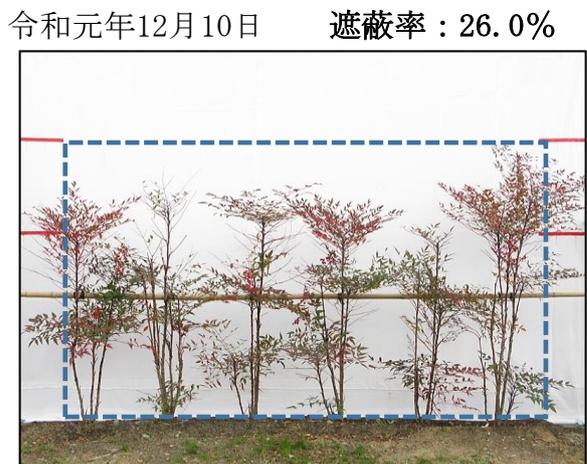
キンマサキ



モッコウバラ



ナンテン



レッドロビン



トピックス ‘植木相談あれこれ’

愛知県植木センターでは、研修や調査研究などの業務を行っていますが、植木の生産や管理、病虫害防除など植木に関する様々な相談に応じる相談業務も主要な業務の一つとして取り組んでいます。

年間に200～300件程度の相談が寄せられますので、職員の知識を結集し、文献やインターネットなども駆使してできる限り適切な回答ができるように努めているところです。

ここでは過去3年間の相談記録をもとに、寄せられた相談内容を紹介したいと思います。

相談は植木センターに来訪される場合と電話による相談があり、来訪が52%、電話による相談が48%とほぼ同程度の比率となっています。

相談内容は多岐に亘りますが、大きく分類しますと、病虫害の防除に関する質問が最も多く33%を占め、次いで植栽や管理方法など植栽一般に係る質問が25%、次に植栽木の整枝剪定に係る質問が14%となっており、以下、繁殖に係る質問や土壌・肥料についての質問が続きます。

質問の中には、「木が枯れてしまうが何故か」、「花が咲かないが何故か」、「葉が落ちるが害虫か病気か」など、質問を聞いただけでは答えに窮するものも多く、現場の植栽環境や被害の状況などを詳しく聞きながら原因を推察し、対処法をお答えすることとなります。



では、具体的な相談内容と回答の要旨をいくつか紹介したいと思います。

Q 数年前にハナモモを購入して植えたが花が咲かない。なぜ？

A (接ぎ木の台木の枝が勢いよく成長しているとのこと) 接いである枝に栄養分が供給されるように、台木の枝を徐々に切り落としてください。

Q ウメに発生する球形のカイガラムシの防除法は？

A タマカタカイガラムシと思われます。5月下旬から6月中旬にふ化幼虫が這い出てきますので、マラソン乳剤かマツグリーン液剤2を散布してください。

Q ツゲが枯れたが虫害か？

A イヌツゲは年数が経過すると病害(イヌツゲ枝枯病)で一枝ずつ枯れていく被害が発生します。強度の剪定や殺菌剤で防除します。

Q 柑橘類の根元に木くずが出ており、カミキリムシの被害だと思うが、防除法は？

A 園芸用キンチョールのノズルを穴に差し入れて噴霧したり、成虫の発生期にスプラサイドやモスピランを散布したり、産卵期(6～7月)にガットサイトSやガットキラー乳剤を幹に塗布する方法があります。

Q ツバキ・サザンカの葉が大量に食害された。対処法は？

A ツバキ類の食害はチャドクガと思われます。登録薬剤としてはオルトランやカルホス、スミパインなどの殺虫剤があります。

Q カイズカイブキにトゲの葉が出てきたが？

A 先祖がえりで元の性質の葉が出てきたものです。強剪定や枝葉の混み過ぎ、年数の経過などで発生します。強剪定を避け、出てきたら取り除いたり、枝透かしも必要です。

Q 工場の芝に除草剤を散布したいが？

A 3月ならクサブロックとターザイン、5月中旬ならクサブロック+アージラン液剤+MCPPの混合が良いでしょう。

Q タケを枯らしたいが？

A 節の途中にキリで穴をあけ、ラウンドアップ除草剤を原液のまま10cc位注入します。何か所かやれば効果は上がります。

Q 生垣のアカメモチの葉に赤い斑点ができて枯れていくがどうしたらよいか？

A ごま色斑点病という厄介な病気です。被害葉を治すことはできませんので、被害の拡大を防ぐためにトップジンM水和剤、ベンレート水和剤を7～10日おきに散布してください。病葉は摘み取り、落葉も集めて焼却するか埋めて下さい。

Q モモが幹からヤニを出しているが病気か害虫か？

A コスカシバの幼虫が幹内を食害して中からヤニ状物を排出していると思われます。内部にいる幼虫をハンマーで叩き潰すか、ナイフで幹を削って捕殺するなどの方法があります。薬剤では成虫の産卵を防ぐためガットサイトを幹に塗布する方法もあります。

Q マツの枝に白っぽいコケがついてマツが枯れる。コケを除去するには？

A ウメノキゴケという地衣類で、これが害を及ぼしてマツが枯れることはないと思われまます。除去にはボルドー液の散布が効果があるといわれています。

Q 庭にシマトネリコを植えようと思っているが？

A 成長が早く高木になりますので、低木のうちから適切な管理が必要です。

Q 冬に花が咲く生垣に適した樹木は？

A サザンカやツバキはどうでしょう。

Q サルスベリにススがついたが、対処法は？

A アブラムシの排泄物によるスス病ですので、アブラムシを防除する殺虫剤の散布が必要です。

Q ウメの剪定方法は？

A 基本は冬ですが今（5月）でも大丈夫です。徒長枝は伐り、他の枝は半分～1/3残して伐ります。ただし親指以上の太さの枝は冬に伐ります。

Q （カキの葉を持参）この虫が数か所で発生したが、何という虫か、防除法は？

A アメリカシロヒトリの幼虫です。成長すると分散して被害が拡大しますので、スミチオン乳剤などを散布してください。

トサカフトメイガ

チョウ目（鱗翅目）メイガ科



葉を包み込むような大きな巣を作り、中に幼虫が群生
H23.8.2 シナサワグルミ



巣をほぐすと内部に幼虫が群生
H23.7.21 スモークツリー



葉を食べ尽くされてクモの巣状の巣が残る
H23.7.28 スモークツリー



若齢幼虫(体長6~7mm) H23.8.1 ハゼノキ



中齢幼虫(体長20mm) H22.7.30 シナサワグルミ



老齢になると単独で巣を作る(体長33mm)
H22.7.30 シナサワグルミ

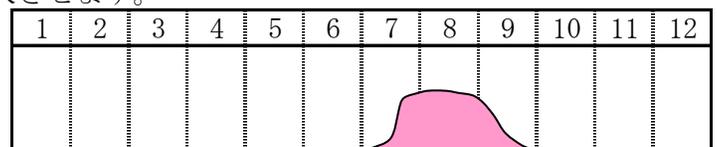
1. 発生樹種

ヌルデ、クルミ、ニワウルシ、シナサワグルミ、スモークツリー、ハゼノキ

2. 害虫の特徴（発生時期、形態等）

年1回の発生とされ、7月中旬に枝先の葉を包み込むような大きな巣を作って中に若齢幼虫が群れ、取り込んだ葉を食べ尽くすと集団で移動し、被害を拡大させます。

20~30mm程度に成長すると分散して単独で営巣するようになり、老齢幼虫は体長40mmに達し、頭部は黒色、背面は茶褐色で、側面に暗褐色帯が縦に走り、この中に白斑が散在します。



3. 被害の特徴

枝先の葉を綴った巣の中で集団で食害するため、被害の進行は早く、中・老齢になると分散して単独で新たな巣を作るので被害はさらに拡大します。

4. 対策

発生初期に枝ごと切除して焼却するのがもっとも確実な防除法ですが、農薬散布による防除では、ケムシ類に登録のある農薬が使用できます。